

JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会 審判インストラクター報告

【概要】

- 大会期間：2024年12月26日(木)～29日(日)
- 開催地：鹿児島県鹿児島市内3会場11ピッチ
- 北海道派遣審判員：鈴木 陽和 氏(高校2年生)オホーツク地区サッカー協会  
吉村 心 氏(高校3年生)千歳地区サッカー協会
- 参加者：審判員(32名)、地域インストラクター(16名)、JFAインストラクター(8名)
- 大会スローガン：「ユメへのトビラをコジアケロ」
- 審判チーム目標：「大会のすべての試合で選手たちが全力でプレーできる試合環境を提供できるようにチャレンジする」
- 全体日程および内容：  
※(公財)北海道サッカー協会審判委員会育成部主催の研修会および、(公財)日本サッカー協会審判委員会が主催する研修会も合わせて以下に記載する

日にち	内容	備考
11月13日(水)	第1回事前研修会 (Zoom)	主催：(公財)日本サッカー協会審判委員会 対象：審判員、地域インストラクター、JFAインストラクター <u>資料番号①</u>
11月30日(土)	道央ブロックレフェリーアカデミーユース審判員実技研修会	主催：(公財)北海道サッカー協会審判委員会育成部 対象：北海道ユースレフェリー <u>資料番号②</u>
12月4日(水)	第2回事前研修会 (Zoom)	主催：(公財)日本サッカー協会審判委員会 対象：審判員、地域インストラクター、JFAインストラクター <u>資料番号①</u>
12月10日(火)	本大会参加北海道ユースレフェリー対象事前研修会 (Zoom)	主催：(公財)北海道サッカー協会審判委員会育成部 対象：北海道ユースレフェリー <u>資料番号③</u>
12月17日(火)	第3回事前研修会 (Zoom)	主催：(公財)日本サッカー協会審判委員会 対象：審判員、地域インストラクター、JFAインストラクター <u>資料番号①</u>
12月22日(日)	道東ブロックレフェリーアカデミーユース審判員実技研修会	主催：(公財)北海道サッカー協会審判委員会育成部 対象：北海道ユースレフェリー <u>資料番号②</u>
12月25日(水)	前日研修会 (対面)	主催：(公財)日本サッカー協会審判委員会 対象：審判員、地域インストラクター、JFAインストラクター <u>資料番号④</u>

12月26日(木)	競技(予選ブロック1日目)研修会(対面)	対象:地域インストラクター 資料番号④
12月27日(金)	競技(予選ブロック2日目およびラウンド16、交流戦)研修会(対面)	対象:地域インストラクター 資料番号④
12月28日(土)	競技(準々決勝、準決勝およびフレンドリーマッチ)	
12月29日(日)	競技(決勝)	

### 1【はじめに】

本大会への地域インストラクターとしての参加は昨年に引き続き2度目であった。昨年度の経験を踏まえ、北海道から参加するユース審判員が本大会での経験からより成長できるよう、事前・事後でのフォローアップの観点から、連絡システムの確保、資料共有ツールの使用、様々な研修会の企画、および事前事後アンケートの実施などを行った。以下に図として示す。

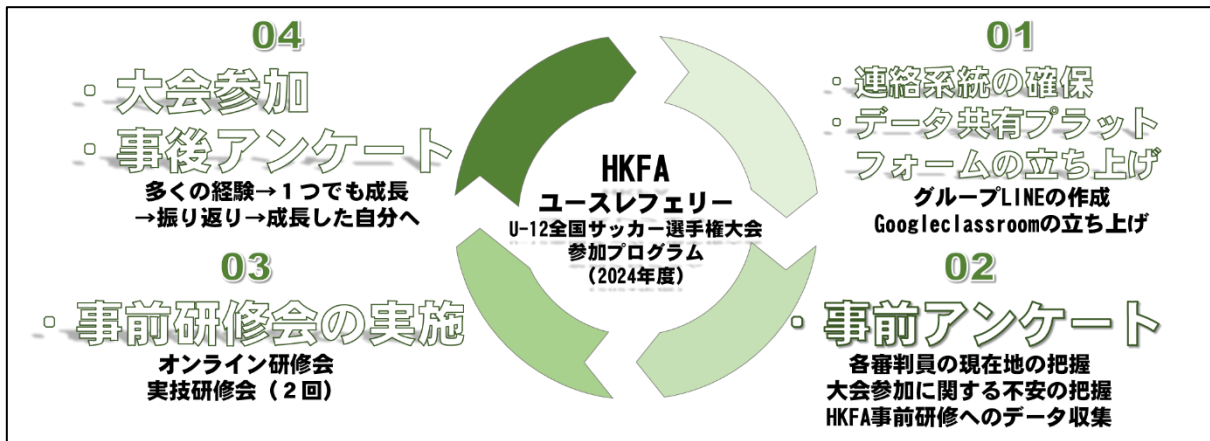


図1. 2024年度U-12全国サッカー選手権大会北海道派遣審判員プログラム

### 2【事前研修報告(JFA)】—資料番号①—

「第1回～第3回事前研修会」

主催:(公財)日本サッカー協会審判委員会

	内容	備考
第1回研修会 (11月13日)	《全体》 ・大会概要説明 (スケジュール、競技場、レギュレーション) ・地域インストラクター、派遣審判員の自己紹介	開催方法:Zoom
	・注意事項 ・旅券手配 ・第2回研修会に向けた準備 (試合映像の確認、競技規則テスト)	

	<p>《地域インストラクター》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審判員に対する指導方針、指導目的のレクチャー</li> </ul>	
<p>第2回研修会 (12月4日)</p>	<p>《全体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会レギュレーションの詳細</li> <li>・前回大会試合映像を見た感想共有</li> <li>・審判員として大会に関わる意義や注意点</li> <li>・コンディション調整について</li> <li>・テクニカルセッション (サッカーの原理原則とU12大会の特徴、グリーンカードについて)</li> </ul> <hr/> <p>《地域インストラクター》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審判員への具体的指導方法の留意点</li> <li>・地域インストラクターに求められる資質能力</li> </ul>	<p>開催方法：Zoom</p>
<p>第3回研修会 (12月17日)</p>	<p>《全体》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッション (テーマ：本大会のサッカーに求められる審判員の役割とポジショニングおよびフェアプレーについて)</li> <li>・移動に関わる最終確認</li> <li>・注意事項</li> </ul> <hr/> <p>《地域インストラクター》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセッサーとインストラクターの違いと本大会での地域インストラクターの役割</li> <li>・前日研修に向けた説明 (映像資料確認)</li> </ul>	<p>開催方法：Zoom</p>

### 3 【実技研修報告】—資料番号②—

「ブロックフェリーアカデミーユース審判員研修会（道央・道東）」

主催：（公財）北海道サッカー協会審判委員会育成部

目的：本道在住のユース審判員を対象に fast-track を意識した研修会を行い、その知識と技能の練磨の機会とし、早期に2級審判員となれるよう活動を行う。競技規則の理解や、審判と選手が互いに尊重する精神の醸成など、青少年の健全育成と優秀なユース審判員の育成や発掘を行う。

#### （1）道央ブロックフェリーアカデミーユース審判員研修会

（開催日：11月30日（土） 開催場所：北海道恵庭南高等学校グラウンド）

インストラクター：靱山 智哉、長浜 杏名、岸本 拓洋

参加者：吉村 心（サッカーユース3級審判員）

内容：7VS7 + 2GK における1人制審判の実践（プラクティカルトレーニング含む）

HPT(Hokkaido Physical Training)VIへの参加

（※北海道強化指定審判員フィジカルトレーニング）



写真1. HPT VIへの参加の様子



図2. 実技研修におけるフィードバックの様子



写真3. 腰にスマートフォン、耳にワイヤレスイヤフォンを装着し、インストラクターとの簡易的通信システムを構築（2回の実技研修で試行）

（2）道東ブロックレフェリーアカデミーユース審判員研修会  
（開催日：12月22日（日） 開催場所：北海道立北見体育センター）  
インストラクター：靱山 智哉、大石 かおり  
参加者：鈴木 陽和  
内容：7 VS 7 + 2 GK における1人制審判の実践（プラクティカルトレーニング含む）



写真4. インストラクターによるフィードバックの様子



写真5. 体育館での実技研修の様子

☆いつ・どこに・どのように・なぜ「動く」のかを整理するため、「サイドコーチング」・「シャドートレーニング」・「簡易的な通信システムによるコーチング」を行い、【動きの改善から正しい判定へ導く】という目標のもと、実技研修を行った。

#### 4 【事前研修会報告（HKFA）】—資料番号③—

「U-12 全国サッカー選手権大会北海道ユースレフェリー対象事前オンライン研修会」

（開催日：12月10日（火） 開催方法：Zoom）

インストラクター：靱山 智哉、長浜 杏名、岸本 拓洋

参加者：鈴木 陽和、吉村 心

アドバイザー：猪股 陽菜梨 氏（昨年度同大会北海道派遣審判員）

加藤 和馬 氏（昨年度同大会北海道派遣審判員）

オブザーバー：古曾部 統太郎 氏（北海道サッカー協会審判委員会育成部長）

平石 暁史 氏（北海道サッカー協会審判委員会育成部）

	内容	備考
1.	審判や大会参加に対する 疑問点や不安などの共有	事前調査 (Google フォーム) による結果から
2.	昨年度の試合を観ての意見共有	事前配信した映像を視聴しての意見共有
3.	事象分析、ディスカッション (競技規則、判定基準、マネジメント)	3つの映像分析
4.	アドバイザーによる意見共有	昨年度参加審判員からのアドバイスと注意事項整理
5.	質疑応答	

☆本研修会の目的は「正しい判定をするための競技規則の整理」および「大会参加に向けた不安の共有・解消」である。そこで、地域インストラクター、北海道サッカー協会審判委員会育成部および昨年度同大会参加審判員が、本大会に参加する北海道ユースレフェリーに対し、フォローアップを行うことで、大会参加まで、また、大会における審判活動がより有意義になるような研修会にするため企画した。

もう一つのポイントは、昨年同大会に参加した審判員をアドバイザーとして参加していただくことで、当事者意識の向上やティーチングスキルの向上に繋がり、今後の審判活動へ繋げてもらうことも期待している。

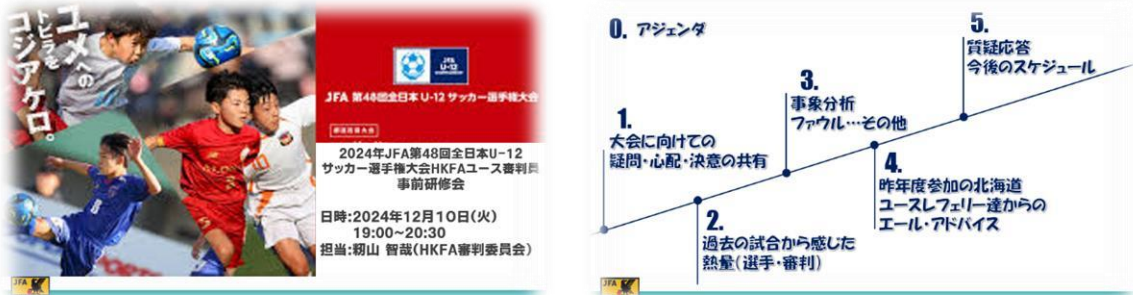


図 2. U-12 全国サッカー選手権大会北海道ユースレフェリー対象事前オンライン研修会のスライド（抜粋）

5 【現地研修会】—資料番号④—

研修会	内容	備考
前日研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域インストラクターの模擬レクチャー</li> <li>・ユースレフェリーとのグループ分け</li> <li>・大会レギュレーション確認</li> <li>・注意事項</li> <li>・スケジュール</li> </ul>	2人1組での模擬レクチャー →事前映像から、実際のユースレフェリーに対しどのようにアドバイスをし、改善させるかをJFAインストラクターのアドバイスのもと実践形式で実施
大会1日目研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッション</li> </ul>	テーマ 「審判員の現在地・試合の特徴から、審判員を試合にマッチさせるためのサポート方法」について
大会2日目研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッション</li> <li>・3日目の割当てについて</li> </ul>	テーマ 「各地域で、本大会の審判員の現在地から本大会を担当する審判員に対し、準備させること」について



写真 6. 前日研修会における（公財）日本サッカー協会審判委員会委員長 扇谷 健司 氏 からの挨拶



写真 7. インストラクター研修会におけるグループディスカッションの様子

6 【試合における審判インストラクターについて】

○方法：4人のユースレフェリーに対し2人の地域インストラクターが1グループとなり、1日6試合を2日間、合計12試合を担当した。

☆

「審判員1人1人の審判員としての現在地」の把握

↓

「前半→後半」・「前の試合→次の試合」・「1日目→2日目」に対し改善させる手段を適切に選び実践する

ポイントは【試合にマッチさせること】。その積み重ねから「大会を成功させること」その指標として、今回の審判グループのテーマである、「大会のすべての試合で選手たちが全力でプレーできる試合環境を提供できるようにチャレンジする」に対し、審判員をチャレンジさせられることができたか。がインストラクターに求められることである。

「何を・どのように・どのくらい」伝えるのか。伝えることで審判員がどのように変化したか。を常に自問自答しコーチングを行い、審判員の成長は我々インストラクターにかかっているととっても過言ではないと感じた。

我々インストラクターに求められるスキルとして、「審判技術分析力・試合分析力・問題提起力・問題解決能力・事象分析力・論理的思考力・コミュニケーションスキル」など多くのスキルが必要とされ、今回、本大会にインストラクターとして関わらせていただき、多くを学ぶことができた。



写真8. レフェリー小グループにおけるミーティングの様子



写真9. ハーフタイムにおけるアドバイスの様子

### 7 【大会参加した北海道ユースレフェリーの事後アンケート結果から】

アンケート実施日：2024年12月29日（日）

アンケート方法：Google フォーム

対象者：2名回答内容（※一部抜粋）

《質問項目》	《回答》
①本大会に参加する前と後で変わった、審判に対する思い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今のままの頑張りじゃ埋もれていくなと思った。</li> <li>・どうやったら上手くなるか考えるようになった。</li> <li>・フィジカルは維持して、知識、ポジショニングなど足りない部分を補うようにトレーニングしないといけないと思った。</li> <li>・決勝審判員のような安心感があるレフェリーを超えたいと思った。</li> <li>・大会参加前までは、笛の経験も少なく、とりあえず頑張るといった感じで目標があまり確かじゃなかったのですが、今大会に参加して、自分が頑張らなきゃいけないとこや伸ばしていくところなどを確認し、また同年代の審判員のレフェリングも見ることができて刺激をもらえました。</li> </ul>
②本大会終了後、審判に対する明確な目標について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは2級取得</li> <li>・全国クラブユースサッカー選手権での審判派遣</li> <li>・もっと競技規則を理解する</li> <li>・色々な試合を見て自分ならどうするのか、参考になりそうなところを学ぶ</li> <li>・もっと自信を持ったレフェリングができるようになる</li> </ul>
③北海道サッカー協会のオンライン研修会で効果的だったと感じる項目	<p>回答上位トップ3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・映像を用いた事象分析（ファウル、懲戒罰、マネジメント）</li> <li>・昨年参加した研修審判員からのアドバイス</li> <li>・移動に関する補助説明</li> </ul>

④北海道サッカー協会のオンライン研修会で取り扱ってほしい内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・怪我人対応</li> <li>・警告／退場の提示方法や手順、および考慮事項</li> </ul>
⑤実技研修会の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人制審判が未経験だったため、1度実践できてすごく良かった</li> <li>・PKの手順を学べたので、実際に大会でやった時にスムーズにできたと思う</li> <li>・インカムみたいにするとリアルタイムでアドバイスをいただけるので、改善しやすく、定着させやすかったため</li> <li>・事前に練習できたことで不安が軽減されたし、そこで言われたことを大会の日に意識できたから</li> </ul>
⑥今後の実技研修会で取り扱ってほしい内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファウル基準の勉強</li> <li>・U-12 カテゴリーの試合なので、球際をどれぐらいやらせるのかなど</li> <li>・各ファウル時の流れの確認</li> <li>・PK 手順の確認</li> <li>・警告／退場時の手順</li> </ul>
⑦次年度参加するユース審判員に対し、本大会へ審判として参加するにあたりアドバイス	<p>回答上位トップ3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人制審判の経験</li> <li>・競技規則の理解</li> <li>・強いメンタリティー</li> </ul>

## 8 【おわりに】

本大会へ地域インストラクターとしての参加は昨年度に引き続き2度目であった。大きなタスクとして、北海道から参加するユース審判員の事前事後フォローアップ、および、私自身インストラクターとしてのスキルアップである。

前者に関して、昨年度からブラッシュアップをし、「図1. 2024年度U-12全国サッカー選手権大会北海道派遣審判員プログラム」に示すとおり、ユース審判員との関係性作り、様々なツールを用いた情報共有から安心感を与え、また、北海道サッカー協会としての事前研修会を企画・実施することで、本大会が実りある活動となるような支援をすること。

後者に関しては、全国から参加する「現在地」が異なるユース審判員たちの現状を把握し、瞬時に問題点に対する助言を考え、いつ・どのよう・どのくらいに伝えるかを判断する。相当なスキルが求められることを再認識した。しかし、審判員の中でも、特にユース審判員の成長は早くかつインストラクターの助言を素直に聞き、瞬時にピッチで表現する。ということは、前記のとおり、インストラクターの技量次第でいかようにも変化するということである。

今回、本大会にインストラクターとして参加をさせていただき、また、北海道のユース審判員が全国大会で審判員として活躍するためには、今回参加したユース審判員の事後アンケートにも記載のとおり、「1人制審判の経験」と「最後まで走りきれぬフィジカル」また、「競技規則の理解」が不可欠に感じる。今後は、この経験とデータから北海道のユース審判員に対し、更なる審判スキル向上や人間性の向上に対し、アプローチが必須と感じる。

最後に、今回本大会に地域インストラクターとして関わらせていただきまして、JFA 審判委員会の皆様をはじめ、九州 FA 審判委員会、鹿児島県 FA 審判委員会、大会運営の方々、そして、ご推薦していただきました、北海道 FA 審判委員会に感謝を申し上げます。

